—Senzoku Gakuen College of Music—

WORLD MUSIC COURSE presents

洗足学園音楽大学 ワールドミュージックコース ウィンターコンサート

World Music Course Winter Concert

2021年12月5日(日)

開場14:30／開演15:00

シルバーマウンテン2F

主催：洗足学園音楽大学

■新型コロナウィルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い■

感染しないために。感染させないために。

・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
・大声や対面での会話はお控えください。

皆さまが安心して楽しめるように。

・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。

混雑環境の緩和のために。

・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
・休憩時・終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。

万が一集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者情報を提供する場合がございます。

― PROGRAM ―

【第１部】

S.レオナルディ ／ シシリアの思い出

村山実裕加（マンドリン） 小林愛美（ギター）

G.フォーレ／ シシリエンヌ

楊江虎（二胡） 小林愛美（ギター）

L.ボッケリーニ ／序奏とファンダンゴ

小林愛美 石川菜々子 伊藤陽夏 中根康美（ギター）

H.ガル ／ ３つのマンドリンのための組曲

島田龍輔 村山実裕加 小長井翼（マンドリン）

M.アーノルド ／ セレナーデ

小林愛美 石川菜々子 伊藤陽夏（ギター） 村山実裕加（マンドリン）片山柊（バンドネオン）

V.モンティ ／ チャルダッシュ

楊江虎（二胡） 片山柊（バンドネオン）

R.メンディサバル ／ エル・エントレリアーノ

島田龍輔 村山実裕加 小長井翼（マンドリン）
小林愛美 石川菜々子 伊藤陽夏 中根康美（ギター）
楊江虎（二胡）片山柊（バンドネオン） 山田武彦（ピアノ）

【第２部 インドの響き】

古典曲 ラーガ：カマージュ
（ターラ：ティーンタール[16 拍周期]）

小日向英俊（シタール） 逆瀬川健治（タブラー・バーヤーン）
小長井翼 村山実裕加（マンドリン） 小林愛美 石川菜々子 伊藤陽夏（ギター）
楊江虎（二胡） 片山柊（バンドネオン）

曲目解説

S.レオナルディ／シシリアの思い出

サルヴァトール・レオナルディ(1872～1938)はイタリアのシチリア島、カタニア生まれのマンドリン奏者・作曲家です。他にも「ナポリの思い出」や「カタニアの思い出」といった故郷に思いを馳せて書かれた作品が残されています。

4 分の 3 拍子で「マズルカ」として作られているこの曲は、テーマが何度も繰り返されるのが特徴的です。
メロディーがギターに移る部分では、マンドリンが周りを軽やかに踊るように演奏します。
その後、転調とともにフィナーレへと向かいます。短調で書かれていますが、全体的に華やかな印象を受ける曲です。

レオナルディが表現した故郷の思い出にぜひ耳を傾けてください。

G.フォーレ／ シシリエンヌ

シシリエンヌ（イタリア語では「シチリアーノ」）は 17・18 世紀イタリアのシチリア由来の古い舞曲で、緩やかな速度で演奏され叙情的に感じられる曲です。

8 分の 6 拍子で付点のリズムが特徴的で、この曲では伴奏形にはアルペジョが使われ、田園風景を思わせるような曲想となっているといえます。

もともとメーテルリンクの戯曲「ペレアスとメリザンド」の付随音楽として作られたこの曲は作曲者のフォーレがイタリアを訪れた際、船中でシチリアの民謡を聴き感銘を受けて作曲されたとも言われています。

L.ボッケリーニ ／序奏とファンダンゴ

ルイジ・ボッケリーニはイタリア・ルッカ生まれの作曲家、チェロ奏者。原曲はギターと弦楽合奏の為に書かれました。
この序奏とファンダンゴはギター・アンサンブルやピアノとギターの二重奏などの編成でクラシックギター奏者に親しまれています。

ファンダンゴはスペインでとても流行していた踊りの一つで、他にアントニオ・ソレルやドメニコ・スカルラッティもファンダンゴを作曲しています。イントロダクション（序奏）は 4 分の 4 拍子で非常に荘重でゆっくりなテンポで演奏されます。
ファンダンゴに入ると 4 分の 3 拍子のスペイン舞曲のリズムになり二短調に転調し、雰囲気が一変します。

本日はギター四重奏の編成で演奏します。

曲目解説

H.ガル ／ ３つのマンドリンのための組曲

ハンス・ガル(1890～1987)はオーストリアで生まれ、イギリスを中心に活動した作曲家です。
同時代の新ウィーン楽派のような音楽よりも、その前の時代、後期ロマン派の影響を強く感じさせるその作風が特徴的です。

マンドリンやマンドリンオーケストラについても造詣が深く、当時のドイツやオーストリアで盛んに作曲・演奏された“zupf”（トレモロをあまり使用しないで弦をはじく奏法を多く用いる）の様式に則りつつもウィットに富んだ作品は、マンドリンオーケストラのための作品を中心に日本でも度々演奏されています。

今回演奏する組曲は、マンドリン３台による珍しい編成で作曲された作品となっています。
以下の４曲により構成されています。

■Ⅰ.Marche mignonne（愛らしい行進）　■Ⅱ.Sarabande（サラバンド）

■Ⅲ.Gavotte（ガヴォット）　■Ⅳ.Gigue（ジーグ）

M.アーノルド ／ セレナーデ

マルコム・アーノルド(1921～2006)はイギリスの作曲家、トランペット奏者。
交響曲、バレエ音楽、映画音楽などあらゆるジャンルの音楽を手がけ、1957 年公開の映画『戦場にかける橋』の音楽を担当しアカデミー作曲賞を受賞しました。

本日演奏するセレナードはイギリスの代表的ギタリスト、ジュリアン・ブリーム氏に捧げられた楽曲であり、ギターと弦楽四重奏の編成で書かれています。

1955 年に作曲者のアーノルド本人による指揮のもと初演されました。冒頭では背景の繊細な音色と共にギターのハーモニクスが美しく響き、三拍子の優雅で心地よいテーマが始まります。中間部では不安を煽るようにピチカートが駆け抜け今までの穏やかな雰囲気は一変し、そしてその時間はあっという間に過ぎ去り、馴染みのある冒頭のテーマへと移り変わり現実に引き戻されます。
アーノルドの幻想的なサウンドと共に、優雅な時間をお楽しみ下さい。

V.モンティ　／ チャルダッシュ

作曲者のヴィットーリオ・モンティ（Vittorio Monti（1868～1922）はイタリア・ナポリ生まれの作曲家です。
曲はハンガリー語で「酒場」という意味のチャールダに由来したジプシー風民族舞曲。特徴として、テンポが遅い部分のラッサンと、速い部分のフリスカがあり、この対比がこの曲を印象的なものとしています。もとはマンドリンのために作られた曲ですが、今回は二胡とバンドネオンで演奏します。

曲目解説

R.メンディサバル　／　エル・エントレリアーノ

「エントレ・リオスの人（アルゼンチンの東部メソポタミア地方の州の名）」というタイトルのこの曲は 1897 年に作曲されました。今日親しまれているタンゴの中では最も古い作品として知られていて、同じく古い曲として長く愛聴される「エル・チョクロ」よりも 8 年程前に作られたものです。トロイロ、ダリエンソ、カナロ、ピアソラなどアルゼンチン・タンゴの名だたる楽団の編曲によるそれぞれの演奏があり、中間部の特徴的な半音階の進行がそれぞれに表現されています。

今回はワールドミュージックコースに所属するユニークな楽器編成のすべての演奏者のための特別ヴァージョンで演奏します。

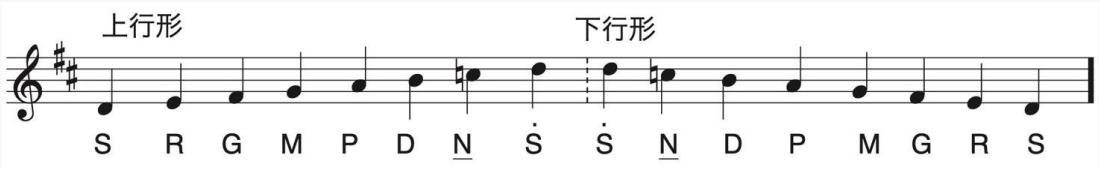
～インドの響き～

古典曲　ラーガ：カマージュ（ターラ：ティーンタール[16 拍周期]）

北インドの古典音楽（ヒンドゥスターニー音楽）の演奏楽器は、伝統的にはシタール（撥弦楽器）、バンスリー（横吹フルート）やタブラー（打楽器）などです。これらは、インドらしさを表現しやすい形を持ち独特の響きをもっています。またこの音楽では、ラーガ（旋法／音階）とターラ（リズム周期）を選んで即興で演奏を展開します。本日は、さまざまな楽器でインド音楽を演奏してみます。新しい響きのインド音楽になるでしょう。

演奏するカマージュというラーガは、音階の第七度の音が♭になります。第三度音（G：ガ）の音が重要で、演奏中もテーマ旋律（ガット）の開始音にもなっています。比較的制約が少なく自由な展開が可能です。

ラーガ：カマージュ



本日は、インドでの演奏構成を少し組み替えて、以下の順序で演奏します。

1. ヴィランビト・ガット（緩徐なテンポ）
2. アーラープ～ジョール（自由リズム）
3. マディヤマ・ガット（中庸なテンポ）
4. ジャーラー（終結部）

出演者紹介

小日向英俊（こびなたひでとし）

シタール奏者。
1977 年よりスシュマ・オマタ、1982 年よりクリシュナー・チャクラヴァルティの各氏にシタールを師事。
1980 年国立音楽大学楽理科卒。1987 年インド国立バナーラス・ヒンドゥー大学大学院修了（M. Phil. Musicology）。

主要論文に「The reception of Asian musics in modern Japan: Who were learning Indian music?」(2006 年)など多数。大学で世界音楽を講じる傍ら、シタール演奏、執筆などを行う。2005 年、ソロ・アルバム「月明かりの下で Under the Moonlight」をリリース。洗足学園音楽大学講師、東京音楽大学客員教授（音楽学）。

逆瀬川健治（さかせがわけんじ）

タブラー奏者。
1978 年より、パンディト・マハプルシュ・ミシュラ氏にタブラーを師事。
1981 年より、北インド古典音楽をはじめ、ジャンルを超えた活動を展開し、日本各地をはじめインド、台湾、香港にて、国内外の音楽家、舞踊家、アーティストと共演。

レコード、CD、TV-CM 音楽、ラジオ（NHK-FM、東京 FM 等）での演奏、音楽大学、カルチャースクールでの講演。
タブラー教室での指導も行う。2001 年、初めてのリーダーアルバム「にぎみたま」を発表。洗足学園音楽大学講師

中根康美（なかねやすみ）

ドイツ国立ケルン音大卒。東京国際ギターコンクール入賞。
文化庁の助成によるスクールコンサートや、NHK 教育テレビに出演するなど、ソロ・アンサンブル・歌曲伴奏など幅広いジャンルで活動。

CD「吉松隆 優しき玩具」を現代ギター社より、フルートの故田中潤一氏との「タンゴの歴史」をアルケミスタより、ケルンギターカルテット「耳に残るは君の歌声」「君住む街角」をコジマ録音より各リリース。
GG 学院、洗足学園音楽大学客員教授。

山田武彦（やまだたけひこ）

東京藝術大学大学院修了、パリ国立高等音楽院ピアノ伴奏科首席卒。
数多くの演奏者と共演、ソリストのパートナーとして常に絶大な信頼を得ている。
またユニークな演奏会企画を立案および参加し各地にて好評を得る。

～ワールドミュージックコース学生プレゼン！①～

わたしの楽器は「ここが魅力！！」

小長井翼（学３ マンドリン専攻）

私は高校の部活動でマンドリンに出会いました。合奏で主旋律を奏でる姿に惹かれ、この楽器を弾きたいと思うようになりました。魅力はやはりキラキラした音色でのトレモロ奏法ですが、１部の三重奏では主にピッキング奏法を用いて演奏します。今回初めて 3rd マンドリンを担当するので、全体を支えられるよう頑張りたいです。

小林愛美（学３ クラシックギター専攻）

ギターの魅力は数え切れないほど沢山ありますが、そのひとつには表情の豊かさがあります。ナイロン弦の優しく愛らしく、どこか切なさを感じさせる繊細な音色が特徴ですが、時にはポップで弾むように明るい表情や、嵐のように荒々しく厳しい表情も見せてくれるのです。本日はギターだけでなく、私たちのコースの楽器が持つ多彩な表情をお届けできるよう、演奏致します。

石川菜々子（学２ クラシックギター専攻）

私は、アメリカやイギリスの洋楽のアーティストに憧れてギターを始めました。優しく、爽やかな音色がギターの魅力だと思います。高校生から始めて、弾けるようになるまで、難しいなといつも感じます。ですが、諦めず少しずつ努力していきたいと思います。合奏では、お互いに聴き合って頑張ります。

島田龍輔（学２ マンドリン専攻）

マンドリンは、モーツァルトやベートーヴェン、ヴィヴァルディなどが作品を残すように当時のバロック期～ギャラント様式の時代の流れに影響を受けながら発展してきた楽器ですが、クラシック音楽だけでなく、様々なジャンルの音楽で受容され、発展してきました。
アメリカのブルーグラス、ブラジルのショーロ、日本ではマンドリンオーケストラがそれぞれ盛んであり、異なるジャンルを同じ楽器で演奏できることは大きな魅力です。

～ワールドミュージックコース学生プレゼン！②～

わたしの楽器は「ここが魅力！！」

片山柊（学２ バンドネオン専攻）

楽器の音色に惹かれバンドネオンを始めました。同じフリーリード楽器に属するハーモニカやアコーディオンとは違いキレのある音が特徴です。アルゼンチンタンゴにおける花形楽器と呼ばれるバンドネオンですが、音域の広さや楽器の音色を利用して様々な音楽のメロディや伴奏を演奏していきたいと思っています。

楊江虎（学２ 二胡専攻）

二胡という楽器は、今までの特色を保持した上で近代のいろいろな発展と改善を経て、音質、音量などすべて大きな飛躍的な革新があって個性的な音色を与えられます。
二胡の演奏は人にその生命力を感じさせることができます

伊藤陽夏（学１ クラシックギター専攻）

クラシックギターの魅力は、旋律、伴奏、打楽器の役割を一台でこなす「小さなオーケストラ」です。
また、楽曲のレパートリーが多く、クラシックの名曲からポップス曲、ジャズやタンゴなど様々な楽曲を演奏できます。
今回は、有名なクラシックの楽曲もなかなか見られない楽器の編成で演奏致します。お楽しみください。

村山実裕加（学１ マンドリン専攻）

マンドリンの魅力はコロコロとした可愛らしい音色だと思います。私もその音色に惹き込まれ、演奏を始めました。マンドリンは楽器の材質や大きさ、木の掘り方や装飾など、個体によって音色も見た目の美しさも大きく異なります。私は表面板に杉を使用した少し大きめの楽器の音色が好きで、本日演奏する楽器も私のこだわりで選びました。柔らかく深みのある暖かい響きが特徴です。皆様にマンドリンの魅力をお届けできるよう、演奏します。

ワールドミュージックコースウィンターコンサート２０２１

■コンサート企画 アカデミックプロデューサー：大江千佳子

■指導教員：中根康美　山田武彦　小日向英俊　逆瀬川健治

■学生インスペクター：小長井翼

■アカデミックコーディネーター：西窪峰人